2007年度 履修要項

桃山学院大学

3．共通基礎科目

(1) 世界市民科目

本学において学び教えるすべての人々は、建学の理念を常に自覚し、本学のアイデンティティを創り出し、有意義なキャンパス・ライフを送ることが求められている。世界市民科目が全学共通の必修科目に位置づけられているのはそのためである。

「世界の市民」に必要な基礎知識は、以下のとおりに人類愛の精神やグローバルな視野の育成につながるものでなければならない。

第１に、建学の理念に謳われているキリスト教精神の根本を理解することが、「世界の市民」には望まれる

第２に、人権問題についての正確な知識と人権尊重の意識が、「世界の市民」にとって不可欠な条件である

第３に、グローバルな視野を養成するためには、多様な問題に関わる世界事情についての正確な知識の習得が「世界の市民」には必須となる

したがって、世界市民科目には、以下の講義が設けてある。

1．キリスト教の歴史と現在についての認識を踏まえつつ、その根本的精神の理解を促進することを目的とする講義

2．人類が確立してきた人権の重要性を学ぶことによって、「世界の市民」に求められる基礎知識と基本態度の鍛錬を目的とする講義

3．担当する本学専任教員が自らの専門的研究内容に関わる世界事情を解説し、グローバルな視野とは何かを学び取ることを目的とする講義

4．担当する本学専任教員が自らの専門的研究内容と「世界の市民」との関連を探求する講義

(2) 外国語科目

国際化の進展にともない、コミュニケーションの手段としての外国語の必要性がますます増大してきている。基本的には、外国語を「読む」、「聴き取る」、「話す」、「書く」といった多様なコミュニケーション能力である。本学の外国語教育はこれらの諸能力のバランスのとれた育成に重点を置いている。

さらに、より高度な国際・異文化間コミュニケーションを実現するには、自文化と異文化への深い理解が必要である。この観点に立ち、世界市民としてのコミュニケーション能力の向上を目指している。

本学の外国語科目には、英語と初修外国語がある。初修外国語には「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「イタリア語」、「ロシア語」、「中国語」、「朝鮮語」、「インドネシア語」および「日本語」がある。「日本語」は外国人留学生および海外帰国生のみを対象とする外国語科目である。文学部においては、初修外国語を共通基礎科目として、経済・社会・経営・法学部においては、初修外国語を共通自由科目（８科目まで）もしくは随意科目として履修することができる。

各外国語科目は共通基礎科目として位置づけられており、卒業のためには８単位の外国語科目を修得しなければならない。

英語の授業内容は以下のとおりである。

英語ＩＡ　桃山学院大学生として必要な英語表現を学ぶ
　　毎回の授業では前の課の復習・訓練と新しい課の導入・訓練を行う

英語ＩＢ　桃山学院大学生として必要な英語会話表現を学ぶ
　　毎回の授業では前の課の復習・応用訓練と新しい課の導入・訓練を行う

英語ⅡA　大学生として必要な英語表現を学ぶ
　　毎回の授業では前の課の復習・訓練と新しい課の導入・訓練を行う
英語ⅡB　大学生として必要な英語会話表現を学ぶ
　　毎回の授業では前の課の復習・応用訓練と新しい課の導入・訓練を行う
英語ⅢA　自分を表現するための英文の書き方の基礎を学ぶ
英語ⅢB　日本の文化・社会を題材にした英文を読み、要旨や意見を英語で報告する
英語ⅣA　自分の意見を表現するためのパラグラフ単位の英文の書き方を学ぶ
英語ⅣB　異なる文化・社会を題材にした英文を読み、要旨や意見を英語で報告する

4．共通教養科目

共通教養科目は、以下の科目構成により、幅広く深い教養を培い、強靱な知性及び身体を養うこと、ならびに総合的な判断力や批判力を涵養することを目的とする。

1．社会の根本的な仕組みを解明する
2．人間の知的営みの深みを探求する
3．自然界を捉える視点を養う
4．自分自身の身体性に気づく

そして、その具体的科目区分は、以下のとおりである。

1．人文・社会・自然の基本的な個別専門科学
2．健康・スポーツ学（講義と演習）
3．個別分野を超えた学際科目
4．先端分野あるいはリメディアル教育（補習的基礎教育）のための共通教養特別講義

共通教養科目のすべての科目は全学部・学科生とも第1年次から履修することができる。そして、「健康・スポーツ学演習」（週1回／通期／4単位）以外は講義科目であり、セメスター制（週2回／半期／4単位）による効果的学習がはかられる。

それぞれの科目において、個別学問分野の成果が、高度産業社会に生きる現代人の基本的教養にふさわしい内容として、明解に提示され、どの科目を履修しても、その個別学問分野の体系的内容が把握でき、なおかつ、広く教養の見地に立った学問的営みの面白さと奥深さを味わうことができるのである。